

ウルグアイ経済報告（4月分）

【概況】

- 4月の消費者物価指数（対前年同月比）は10.86%となり、先月に続き政府のインフレ目標（3～7%）を上回った。前年同月比で食料品・ノンアルコール飲料、娯楽・文化の分野では2桁、それ以外の分野では1桁台の増加であった。
- 4月の対ドル為替レートは平均43.39ペソと、前月比0.12%のペソ安となった。
- 4月の輸出額は668百万米ドル、前年同月比は22.7%減となった。牛肉、セルロース、羊毛、及び牛肉製品の輸出は減少したが、コメ、大豆、医薬品、柑橘類の輸出は好調であった。
- 4月の輸出額第1位は大豆で輸出額は160百万米ドル（前年同月比16%増）となった。同2位はセルロースで輸出額は101百万米ドル（前年同月比38%減）となった。同3位は牛肉で、中国（30%減）、EU（77%減）、米国、カナダ等の主要輸出先への輸出減少に伴い、輸出額は2014年8月以降最低値となる96百万米ドル（前年同月比41.8%減）となった。
- 輸出が好調であったのがコメ、医薬品、柑橘類である。4月の輸出額第4位のコメは、パナマへの輸出増加（約6万トン、18百万米ドルを輸出）及びペルー、EU、トルコ、コスタリカをはじめとするその他輸出先への輸出増加に伴い、輸出額は前年同月の約3倍にあたる54百万米ドル（前年同月比177.6%増）となった。医薬品の輸出額は価格の上昇と輸出量の僅かな増加に伴い21百万米ドル（前年同月比30.3%増）となった。主要輸出先はアルゼンチン（輸出全体の16%）、チリ（13%）、パラグアイ（11%）であった。柑橘類の輸出額は、輸出量の増加に伴い5.4百万米ドル（前年同月比1.5%増）となった。マンダリンオレンジ及びクレメンタインの輸出が特に好調で主要輸出先は米国及びEUであった。
- 4月の主要輸出先を見ると、第1位は中国で輸出額は111百万米ドル（輸出額全体の28%）となった。主要輸出品であった牛肉及び木材、羊毛、牛肉製品の輸出減少に伴い前年同月比は約40%減となった。一方、魚及び生体牛の輸出は増加した。同2位は米国で牛肉及び牛肉製品の輸出減少に伴い前年同月比は15%減少となった。一方、大豆及び柑橘類の輸出は増加した。同3位のEUへの輸出額は牛肉の輸出減少に伴い33百万米ドル（前年同月比45%減）となった。一方、コメ、医薬品、蜂蜜の輸出は増加した。同4位は輸出が大きく落ち込んだブラジルで輸出額は32百万米ドル（前年同月比62%減）となった。輸出の落ち込みの主な要因は乳製品及び自動車部門での輸出減少である。

（出典：ウルグアイ21（ウルグアイ貿易投資促進庁））

【トピック】

1 経済財務省・国際協力銀行（JBIC）間での覚書署名承認

4月13日、ラカジェ・ポウ大統領、アルベレチェ経済財務大臣、及びパガニーニ工業エネルギー鉱業大臣は経済財務省と国際協力銀行（JBIC）の間での覚書への署名を承認する法案に署名した。同覚書によると、経済財務省、工業エネルギー鉱業省の幹部及び職員は JBIC 関係者との間で数か月間に亘りウルグアイが円建て外債を発行する際同銀行の参加、及び日本企業の投資計画への参加について検討するために連絡を取り合ってきた。

2 「コロナウイルス基金」の設置

3月26日、ラカジェ・ポウ大統領は新型コロナウイルス感染症拡大によって生じる出費を補う目的で「コロナウイルス基金」を設置する旨発表。与野党間での協議を経て同基金設置に関する法案が4月1日上院、2日下院にて全会一致で承認された。同基金は新型コロナウイルス感染症対策として国家が実施する全ての活動、厚生省及びその他公共医療関係機関が民間の医療機関に対して支払う支出、国家衛生緊急事態の枠組で国家緊急システム（SINAE）が実施する予防・緩和・リハビリのための活動、及び今次国家緊急事態に関連し社会保障銀行が支払う疾病保険、失業保険に使用される。なお、同基金の財源は、ウルグアイ東方共和国銀行（BROU）の2019年会計年度の利益、国家開発協力（CND）の本法律公布までの累積利益、本法律によって決定される一時的な税金（公務員の給与及び年金に対し1ヵ月あたりの受給額に応じ課税される。課税期間は4月から5月までの2ヵ月間で、状況に応じて更に2ヵ月の延長が可能）、本基金への貢献を目的とした国内外の諸団体及び個人からの資金贈与、国際機関の融資による資金等である。

3 アルゼンチンのメルコスール対外交渉への参加一時中断

4月24日に開催されたメルコスール・テレビ会議にてアルゼンチンは、メルコスールの対外交渉への参加を一時中断する旨発表。翌25日、ウルグアイ外務省は右決定が実質合意済のEU、欧州自由貿易連合（EFTA）とのFTA、現在進行中のカナダ、韓国、シンガポール、レバノンとの交渉及び今後の新たな交渉開始に影響を与えることはない旨発表した。

4 ウルグアイの AIIB 加盟

4月28日、アジアインフラ投資銀行（AIIB）は、ウルグアイが AIIB 加盟国となる手続を

終え、80番目の加盟国となった旨発表した。なお、ラテンアメリカ諸国の同銀行加盟はウルグアイがエクアドルに次いで2番目。

5 格付け

(1) Moody's 社

4月23日、格付会社 Moody's 社は、ウルグアイの比較的安定した経済と組織力の強さに基づきウルグアイ国債に対する格付けを「Baa2」とした。また、近年ウルグアイの経済成長の勢いが弱まっている点を指摘しつつ、経済活動停滞に伴う収益減少、新型コロナウイルス対策関連の追加的な支出が財政赤字悪化に拍車をかけ、2020年の終わりにはGDPは2.5%減、インフレ率は9%前後、財政赤字対GDP比は5.6%になると予測した。

(2) Standard & Poor's 社

4月30日、格付会社 Standard & Poor's 社はウルグアイ国債に対する格付けを「BBB」とした。また、2020年は世界各地での新型コロナウイルス感染症拡大に伴う経済停滞の影響がウルグアイ経済にも影響を及ぼし財政赤字が悪化すると予測。一方、現在進行中の投資計画や財政政策により、一旦感染拡大が収まれば経済見通し改善が見込まれると指摘した。

6 製造業生産活動指数

国家統計院(INE)の発表によると、国営燃料公社(Ancap)を抜いた場合2月の製造業生産活動指数(IVF)の前年同月比は1.3%減となった。なおAncapに加えUPM社、モンテス・デル・プラタ社及びペプシ社を抜いた場合のコア製造業生産活動指数は前年比5.7%減となった。

7 失業率

2月の失業率は2007年5月以降最高の10.5%(前月比2%増、前年同月比2.1%増)、失業者数190,898人となった。社会保障銀行の発表によると、3月には22,039社から81,779件の失業保険申請があった。また、右に加え新型コロナウイルス感染症拡大に伴う部分的失業制度利用申請が4,265件あった。

8 自動車販売台数

自動車販売協会(ACAU)の発表によると3月の走行距離0キロの自動車販売台数は2,464

台(前年同月比 24.56%減)と、2009 年のリーマンショック以来の落ち込みを見せた。 (了)